

第7回緑の基本計画検討部会 摘録

1 開催日時

令和7年10月2日（木）午前10時～午前11時20分

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第2会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 谷 萌子

委員 橋本 佳織

委員 深町 加津枝（部会長）

委員 町田 誠

委員 山口 敬太

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 藤澤 宏太

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

4 次第

(1) 開会

(2) 審議

素案の審議

(3) 閉会

5 会議録 <委：委員、事：事務局>

議題：3章「みどりの展望」将来像

委：

全体の将来像について、鳥瞰図、現況図、将来像という並びに言葉としての違和感はないが、「将来像」という言葉は、行政計画で使う硬い言葉という印象を受ける。アーティストの作品であることを踏まえると、「像」というよりは、例えば「将来の姿」や「未来の姿」といった「姿」の方がふさわしいのではないか。

レイアウトについて、作家への敬意として、作品を先にし、作家名、解説文の順で掲載する方が良いと考える。また、ページが増えても良いので1ページに一つの作品を掲載する形にしてほしい。デジタルブックであることを活かし、紙の都合に縛られず、画面で綺麗に見えることを優先してはどうか。

事：

まず「将来像」という言葉については、いただいた意見を踏まえて柔軟に検討する。レイアウトについても、絵を先に表示し、1ページに一つの作品でゆとりをもって配置する案に変更し、委員の意見を再度伺いたい。

委：

「将来像」の代替案として「将来の姿」や「未来の姿」という意見があったが、他の委員の意見も聞きたい。

委：

「将来の姿」はイメージがしやすく、良い印象である。

委：

同じく「将来の姿」は分かりやすい。

委：

「将来感」という案はどうか。イラストを見て感じるというニュアンスや、想像するという意味も込められる。

委：

「未来に向けて」という案もある。

委：

「将来像」の名称について検討の余地はあると思うが、今すぐ最善の案は判断できない。「姿」は漢字が良いのかも含めて検討が必要である。

委：

これだけの意見が出たので、事務局で一度検討していただきたい。

委：

可能であれば、作家本人がどのような思いで描いたのかという作品紹介があると、さらに読み解きが深まり共感を呼ぶのではないか。

事：

作家の皆さんに、込めた思いを書いていただけないか、一度相談してみる。

委：

感想だが、7名の作家による作品、絵画的なものから漫画的なものまで個性があり、それぞれの場面に合わせてよく選ばれていると感じた。

委：

作品のタッチが多様で、誰もが好きな絵を見つけられるのではないかと感じた。

テーマ9の絵の解説文にある「雨庭」という言葉は一般的に知られていない可能性があり、これを見て雨庭だと分かるような、もう少し丁寧な説明があればより分かりやすくなる。

事：

「雨庭」は専門用語であるため、解説を丁寧に加えるよう検討する。

委：

1ページに一つの作品を載せるという意見に賛成である。作品をじっくり見るきっかけになる。

46、47ページで「京都のまち」という言葉が多用されているが、少し冗長に感じる。

事：

「京都のまち」という表現は、どのページを見ても京都のことだと伝わるように意図的に入れていたが、くどいというご指摘かと思うので、全体のバランスを見て再検討する。

委：

テーマ13の絵は、影が長く夕方を思わせるが、空が夕焼けらしくなく違和感がある。

事：

テーマ13については、作家には昼頃のイメージで依頼していた。アナログで描かれているため修正は難しいかもしれないが、作家の意図を確認する。

議題：4章「一人ひとりにできること」

委：

48 ページの4章「一人ひとりにできること」冒頭の文章が乱れているため、修正が必要である。49 ページ最後の「未来の京都が紡がれていきます」という箇所は、「京都の未来が紡がれる」の方が情緒的で良いと感じる。

事：

48 ページの文章は「～できることとは」という形に修正する。49 ページは「京都の未来」という表現を検討する。

議題：7章「みどりの取組」

委：

7章「みどりの取組」について、項目間で形式が統一されていない。特に公園と街路樹の項目では、リード文が「取り組みます」で終わり、以下が箇条書きで体言止めになっており、十把一絡げに感じてしまう。形式を整えることにどこまでこだわるかだが、公園や街路樹は行政が主体的に関わるものであるから、各項目で「～します」という形で具体的に記述する方が、意欲が伝わるのではないか。

事：

7章のリード文の有無は意図的な書き分けであったが、もし修正するなら全てに足す形が良いかと考えている。公園と街路樹の形式が違うのも、「取り組みます」という言葉の連続を避ける意図があった。

委：

リード文については、内容は2章で解説済みのため、いっそ全て取ってしまうという選択肢もあるのではないか。

事：

リード文をなくすことも可能だが、例えば73ページの疏水のように、2章の解説だけでは分かりにくい規模感等を補足する役割も持たせている。リード文という形式でなくとも、補足情報として残す形等での修正を検討したい。

委：

2章に書くには無粋だが伝えておきたい内容を、リード文で補足するという意図は理解できる。その方向で、内容や書き方を再検討してほしい。

委：

「おすすめアクション」について、生きもの観察等、特定の場所だけでなく全てのみどりで共通してできる活動もあるため、みどりごとの個別アクションとは別に、全体に共通するアクション項目を設けても良いのではないかな。

76 ページの造園文化の項目では、「触れる」だけでなく「学ぶ」「生かす」といった、より能動的な言葉を追加してはどうか。さらに、市民が自宅の庭づくりに関心を持つような記述が7章以前にほしい。例えば30 ページの「敷地の緑化」等が良いのではないかな。

事：

アクションについては、あらゆるみどりで推奨すべきものがあるというご指摘はそのとおりであり、見直しの中で検討する。

造園文化について「学ぶ」「生かす」という言葉の追加は指摘に沿って修正する。個人の庭等小規模な緑化についても重要な点であるため、デジタルブックの機能を活用し、様々なスケールの事例を盛り込む形で意見を反映させたい。

委：

おすすめアクションに「ワークショップに参加する」という項目を追加してはどうか。先日、子どもと木工体験に参加した際、森林の取組について知る良い機会になった。体験を通じてみどりについて知るきっかけになる。

事：

おすすめアクションへの追記を検討する。

議題：具体的施策についての記述

委：

質問だが、現在行われている市の具体的な施策名を計画に記載した方が良いのか、それとも避けるべきか。

「雨庭」の項目等から、市のホームページの解説に飛べるようなQRコード等のリンクは設置されるのか。

事：

具体的な施策名を掲載することで取組のアピールは可能だが、10年間の計画であるため、計画本文よりもホームページ等のリアルタイムに更新できる形で紹介する方が適切だと考えている。

「雨庭」の解説については、デジタルブックから関連ページへ飛べるようにする予定である。

議題：表紙及びタイトル

委：

現在の表紙案のタイトルは理念をそのまま載せているが、メッセージとしては良くても、覚えるには少し長いと感じる。例えば「京都グリーンビジョン 2035」のような、キャッチーで短いタイトルの方が、共感の輪を広げるという目的に合っているのではないか。SNS での拡散等を考えても、覚えやすく短い方が良い。

事：

手に取ってもらうことを意識したタイトルとレイアウトだが、確かに副題等を加えて分かりやすくする工夫は考えられる。裏表紙を見ないと正式名称が分からないという点も課題である。

委：

確かに、理念の全文は覚えるには長すぎると感じる。

委：

理念そのものがタイトルでは長いという意見はもっともである。「彩り溢れる千年先の京都へ」という理念の後半だけをタイトルにするという案も考えられる。

委：

「グリーンビジョン」という言葉は素敵だと思う。理念冒頭の「山紫水明」という言葉は非常に印象的であるため、タイトルから削るのは惜しい。

委：

「山紫水明」も「千年先の京都」も思いが込められた言葉で削りにくいですが、表紙のタイトルとしては伝わりにくいかもしれない。

委：

例えば「千年先も山紫水明の京都」のように、言葉をうまく繋げて短縮する案はどうか。

委：

今回出た案を踏まえ、事務局で検討していただくこととしたい。

議題：6章「方針・施策の方向性」

委：

質を高めるための「仕組みづくり」を進めるというメッセージを計画に盛り込んでどうか。例えば、事業者向けの認証制度や市民向けの表彰制度、さらなる質の高い緑化を促進するための財源確保の仕組みの検討を、6章の施策の方向性⑥において言及することが考えられる。

事：

連携のための仕組みづくりについて、追記を検討する。

委：

6章は漢字・ひらがな表記が統一されていないため、再度チェックしてほしい。

施策の方向性⑦において、「剪定や植栽等の技術にとどまらず」とあるが、この例示が適切かどうか、造園の専門家の意見を聞くべきではないか。

委：

剪定や植栽は、癒やしの空間である庭を作るという仕事の一部である。この表現で良いか、一緒に考えさせていただきたい。

事：

漢字・ひらがな表記と、造園技術の表現について、改めて確認する。

議題：パブリックコメント案

委：

この計画のユニークな点は、数値目標ではなく感性に訴えかけてまちづくりを進めようという姿勢にあるが、今回の概要版の案からはその魅力が伝わってこないのが残念である。特に、2章の「みどりの魅力」を象徴するような美しい写真が一つも使われていない。概要版でも写真を使う等して、この計画の核心である感性に訴える部分を表現できないか。

事：

専門的な内容の積み上げに意識が向きすぎていたかもしれない。一般の市民の方に良さが伝わるよう、写真を使う等配慮し、作り直したい。

委：

概要版で興味を持ってもらえなければ全文を読んでももらえない。現在の文字ばかりの案は難しそうな印象を与えるため、写真を増やして見やすくする必要がある。

委：

この計画が市民を巻き込むものであることが、概要版から伝わってこない。自分ごとではなく、市がやっていることだと思われると読んでもらえないので、本体が意欲的なものであるからこそ、こちらもチャレンジングなものにしてほしい。

委：

概要版のレイアウトについて、現在は積み上げの形で説明されているが、概要版なのだから結論から示しても良いのではないか。計画の4つのポイントを一番上に、4本柱としてビジュアルで分かりやすく見せる構成にしてはどうか。

事：

概要版について、ご意見を踏まえて修正する。

(以上)